

# 薬物依存症家族支援における個別面接用ツールの開発と地域支援者への拡大

北多摩西部保健医療圏

| 実施年度   | 開始 平成27年度、 終了（予定） 平成29年度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 背景     | <p>近年、危険ドラッグの急速な蔓延や、著名人の薬物問題が大きく報道され注目を集めている。また、H25年に薬物犯罪に関して「刑法等の一部を改正する法律」及び「薬物使用等の罪を犯した者に対する刑の一部の執行猶予に関する法律」が公布され、今後保護観察所の薬物事例の取り扱い件数が増えるとともに、保健所を含む地域関係機関での相談も増加することが予想される。一方で薬物依存症本人は問題を認めず、治療や相談の場に行くことに強く抵抗することが多い。</p> <p>また、家族も距離や労力の問題などから専門治療機関や支援機関に相談し続けることができない場合が多く、家族への相談を行う支援者も徒労感を持ちやすい状況にある。そのような中、先駆的な家族支援を実施している一部の医療機関や自治体では、家族支援の結果本人が治療に結びつく確率が高まったとの報告がある。当保健所においても家族支援を行うための個別面接用ツールを開発し、地域に配布・活用を促すことで、保健師や地域支援者の家族支援技術の向上や、家族が適切な知識と行動を身に着け、薬物依存症者本人が治療に結びつく機会が増えることが期待される。</p> <p>また、個別面接用ツールの活用により、支援者が経験や勘などに左右されことなく一定水準の家族相談を提供できるようにすることを目指す。</p> |
| 目標     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 薬物依存症の家族相談を受けている現場での課題やニーズを明らかにする</li> <li>2 家族支援を行うための効果的な個別面接用ツール（ワークブック等）の開発</li> <li>3 地域で展開される薬物依存症家族相談の質の向上を図る</li> </ol> <p>〔H29年度〕</p> <p>個別面接用ツールの配布・普及を行い、薬物依存症の家族支援を行っていくうえで必要な基本姿勢・支援技術に関して、地域関係機関及び職員の認識を深める。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 事業内容   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 個別面接用ツールを修正の上で完成版として印刷し、職員や関係機関に配布する。</li> <li>2 ワーキンググループ、プロジェクトチームで普及方法を検討し、研修会等により個別面接用ツールの効果的な活用を図る。</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 評価     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 個別面接用ツールの印刷・配布<br/>個別面接用ツール「薬物依存症を持つ家族を対象とした個別面接の進め方（支援者マニュアル）」を完成させ、地域関係機関及び都保健所へ配布した。</li> <li>2 個別面接用ツールの普及<br/>平成30年1月26日、地域関係機関及び職員を対象に研修「難しい面接をのりきるためのコツ～面接が楽になる支援者用マニュアルを使ってみよう～」を開催し、個別面接用ツールを活用しながら薬物依存症の家族支援を行っていくうえで必要な基本姿勢・支援技術に関して理解を深めた。研修参加者40名全員が、「このツールが活用できそう」と回答し、具体的に「職場で活用したい（67.5%）」「自分のケース支援で活用したい（57.5%）」「同僚に勧めたい（35.0%）」との結果が得られた。</li> </ol>                                                                                                                                                                     |
| 問い合わせ先 | <p>多摩立川保健所 保健対策課 地域保健担当第一・第二担当</p> <p>電話 042-524-5171</p> <p>ファクシミリ 042-528-2777</p> <p>E-mail S0200166@section.metro.tokyo.jp</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

## 1 事業背景

### (1) 社会的背景

近年、危険ドラッグの急速なまん延や、著名人の薬物問題が大きく報道され注目を集めている。また、薬物事犯は再犯率の高さが問題となっており「罰を与え更生させる」司法モデルから「薬物依存症の治療」を行う医療モデルの重要性が注目されつつある。平成25年に薬物犯罪に関して「刑法等の一部を改正する法律」及び「薬物使用等の罪を犯した者に対する刑の一部の執行猶予に関する法律」が公布され、今後、保護観察所の薬物事例の取り扱い件数が増えるとともに、保健所を含む地域関係機関での薬物に関する相談も増加することが予想される状況にある。

### (2) これまでの保健所における相談支援から浮かび上がった背景

薬物依存症本人は、治療や相談を受ける事に強く抵抗することが多く、専門治療機関につながるまでは長い経過をたどる事が多い。その一方で家族は、本人が起こした問題処理に追われ、地域の相談支援機関に相談し続けることができない場合が多く、家族の相談を受ける支援者も徒労感を持ちやすい状況にある。多摩立川保健所においても、薬物依存症に対する地域の身近な相談機関としての役割が求められているが、相談件数自体も少なく、かつ、それぞれの相談者の背景の多様さからも経験の蓄積がされにくく、対応に苦慮している状況がある。

### (3) 他機関の先駆的取組

先駆的な家族支援を実施している一部の医療機関や自治体では、認知行動療法「CRAFT」等を用いて取り組んだ結果、家族の対応に変化があらわれ、本人が治療に結びつく確率が高まったとの報告がある。

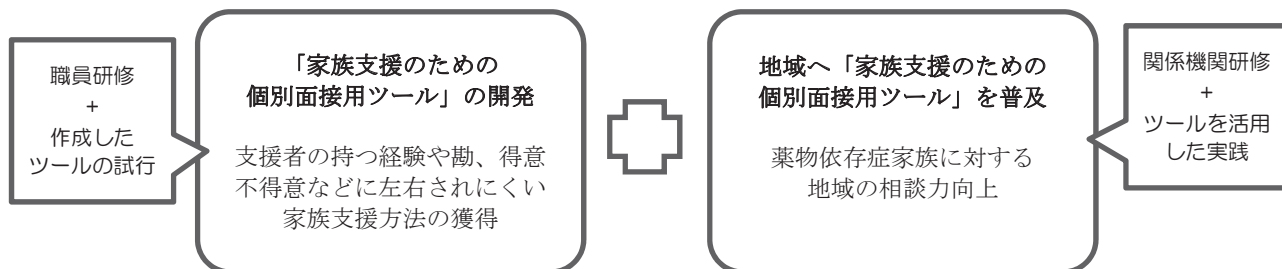


薬物依存症家族の支援を行うために個別面接用ツール(ワークブック等)を開発することで、必要とされる家族支援方法が明確になり、一定水準以上の家族相談の提供が期待できる。

また、地域の関係機関の相談状況を明らかにし、個別面接用ツールを効果的に普及することや研修でツールを活用した実践を促すことにより、家族相談を行う関係機関の相談力の向上につながると考え、本事業の取り組みに至った。

## 2 事業目標

- (1) 薬物依存症の家族相談を受けている現場での課題やニーズを明らかにする
- (2) 家族支援を行うための効果的な個別面接用ツール(ワークブック等)を開発する
- (3) 地域で展開される薬物依存症家族相談の質の向上を図る



### 3 本事業の取り組みスケジュール・事業内容

#### (1) 3年間の計画

| 平成27年度                                                               | 平成28年度                                                             | 平成29年度                                                            |
|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| <b>調査</b><br>①多摩立川保健所管内における地域関係機関の相談状況の把握<br>②個々の支援者の相談状況の把握（困りごとなど） | <b>開発・作成</b><br>①ワーキンググループ・プロジェクトチームによる個別面接用ツールの開発<br>②個別面接用ツールの試用 | <b>普及</b><br>①都保健所保健師による個別面接用ツールの活用<br>②多摩立川保健所管内関係機関への別面接用ツールの普及 |
| 庁内職員・関係機関向け研修会の実施                                                    |                                                                    |                                                                   |

#### (2) 3年間の取り組み状況・事業内容

##### 平成27年度：調査

平成27年度は、地域における薬物依存症家族相談の状況を明らかにし、個別面接用ツールの内容や効果的な普及方法を検討するために、ワーキンググループ（以下WGとする）28回、プロジェクトチーム会議（以下PTとする）3回、職員・関係機関職員の資質向上のための研修会を2回実施した。

また、多摩立川保健所管内の関係機関に対する聞き取り調査（調査1）及び実際に薬物依存症家族相談を行っている都保健所保健師、地域関係機関職員に対するアンケート調査（調査2）を行った。

【調査1】管内各市関係部署及び地域活動支援センター等関係機関34か所に対しチェックリストを元に聞き取り調査を行い、32機関から回答が得られた。その結果11機関が「薬物問題を持つ本人の家族から相談を受ける機能がある」と回答し、保健所以外にも一部の地域関係機関で薬物依存症の家族相談を継続的に行っている現状が把握された。

【調査2】都保健所保健師及び調査1で「家族相談を受ける機能がある」と答えた関係機関職員に対し、アンケート調査を実施し、155名から回答が得られた（回収率74.5%）。その結果、支援者の約8割が薬物依存症の家族相談に対し「不安がある」と回答しており、その要因として「継続相談の難しさ」「家族の行動変容の難しさ」などが影響している可能性が見られ、今後の対策が必要な状況が浮かび上がった。

【研修会】外部専門家講師を招いて、2回開催し、保健所・関係機関職員計で58名の参加があった。

第1回研修会：平成27年6月26日、PTメンバーを対象に「薬物依存症の家族に必要なこと」を開催し、今後課題別推進プランを実施するあたりどこを目指していくか、PTメンバーで具体的な共有を行った。

第2回研修会：平成28年3月7日、依存症問題を抱える方の相談に関わる市役所や地域活動支援センター等の関係者を対象に「依存症の家族相談～思い通りに進められない相談、どうすればいいの？～」を開催し、50名が参加した。

## 平成28年度：開発・作成

平成28年度は、調査結果をもとに個別面接用ツールの開発・作成を行った。所内のWGを24回、薬物依存症の家族相談に携わっている専門家・実務者、所内職員を構成員とするPTを4回実施し、個別面接用ツールの構成、内容について検討を行い作成した。作成した個別面接用ツールは試用を行い、試用者からの評価をもとに修正を行った。

また、職員・関係機関職員の資質向上のための研修会を2回実施した。

### 【個別面接用ツールの開発】

個別面接用ツール（以下、支援者用マニュアル）は、①このツールを使用する前に②面接相談の進め方③活用資料・資料検索の構成とした。①では家族支援の重要性と基本的な姿勢等、②は動機づけ面接法を活用した面接の進め方、「インテーク・アセスメントシート」「今日の相談シート」とその使い方、緊急対応が必要かどうかのアセスメント等、③は知識や技術の確認をする場合に既存のツールを活用するための索引集を記載した。

作成した支援者用マニュアルの試用を行ったところ、修正に関する意見の他に面接を進める際のイメージが付きやすい等の評価が得られた。

【研修会】外部専門家講師を招いて、2回開催し、保健所・関係機関職員計で52名の参加があった。

アンケートでは参考になったという意見が多かった。

第1回研修会：平成28年10月20日、依存症問題を抱える方の相談に関わる市役所や地域活動支援センター等の関係者を対象に、「薬物依存症と回復のロードマップ～支援者としてどう本人と家族に寄り添うか～」をテーマに開催し、24名が参加した。

第2回研修会：平成29年2月9日、依存症問題を抱える方の相談に関わる市役所や地域活動支援センター等の関係者を対象に、「難しい面接をのりきるためのコツ ～「動機づけ面接」という解決方法～」をテーマに開催し、28名が参加した。

## 平成29年度：普及

平成29年度は、所内のWGを11回、PTを1回実施し、平成28年度に作成した支援者用マニュアルの修正を行った上で印刷し、職員や関係機関に配布した。

また、WG、PTで普及方法を検討し、支援者用マニュアルが効果的に活用できるよう研修会を行った。

### 【支援者用マニュアルの完成・配布】

「薬物依存症を持つ家族を対象とした個別面接の進め方（支援者マニュアル）」を完成させ、地域関係機関及び都保健所へ配布した。



＜薬物依存症を持つ家族を対象とした個別面接の進め方（支援者マニュアル）＞

表紙



目次

I. このツールを使用する前に

1. 家族に対する支援・介入の重要性
2. 家族の支援・介入を行う際の基本姿勢
3. 回復のロードマップと支援者の役割
4. このツールの使い方

II. 面接相談の進め方

1. 支援者に求められる基本的態度とスキル
  - (1) 基本的態度
  - (2) 会話の基本スキル (O・A・R・S)
  - (3) 助言や知識を伝えるためのスキル (E・P・E)
  - (4) 家族の行動の変化を促すためのスキル
2. インテーク・アセスメント
  - (1) インテーク・アセスメントシートの使い方
  - (2) インテーク・アセスメントシート
3. 緊急対応を検討すべき状況と対応方法
4. 継続面接
  - (1) 今日の相談シートの使い方
  - (2) 今日の相談シート

III. 付録

「家族心理教育プログラム」を活用するためのリスト  
回復のイメージ  
支援者のための参考資料  
あとがき  
プロジェクトチームメンバー

【研修会】平成30年1月26日、地域関係機関及び職員を対象に、研修「難しい面接をのりきるためのコツ～面接が楽になる支援者用マニュアルを使ってみよう～」を開催し、支援者用マニュアルを活用しながら、薬物依存症の家族支援を行っていくうえで必要な基本姿勢・支援技術に関しての理解を深めた。アンケートでは研修参加者40名全員が「このマニュアルが活用できそう」と回答し、具体的に「職場で活用したい（67.5%）」「自分のケース支援で活用したい（57.5%）」「同僚に勧めたい（35.0%）」との結果が得られた。

#### 4 課題別プラン終了後の予定（平成30年度～）

① 支援者用マニュアルの普及

研究機関専門家（スーパーバイザー）とともに平成30年度アルコール関連問題学会（平成30年9月8日～同年9月10日開催）に参加し、支援者用マニュアルの普及啓発を行う。

② 支援者用マニュアルの改定

支援者用マニュアルを活用していく中で、必要時内容の改定を実施する。